

# 『痛くない死に方』が 実現できる 在宅医の選び方

前編



長尾和宏先生原作・医療監修の映画『痛くない死に方』が2月20日に公開されます。そこで、原作本『痛い在宅医』（ブックマン社）に登場する井上トモミさん（映画では智美・坂井真紀さん）と長尾和宏先生との対談を企画、『痛い在宅医』から学ぶ「痛くない」在宅医の選び方を語ります。

**長尾** トモミさんと僕のやりとりが、映画の前半のモデルとなったわけですが、御覧になっていかがでしたか？。

**トモミ** 豪華キャストの皆さんが熱演されていて。特に私の父がモデルとなった下元史朗さんが亡くなるシーンはつらかったのですが、その失敗を経た後に展開される、柄本佑さん演じる医師と、患者役の宇崎竜童さんの交流に心が温かくなりました。

この映画の原作本のひとつである『痛い在宅医』を出版した3年前には、在宅医療の負の部分である、在宅看取りに失敗した医師と家族のドキュメンタリーを公にすることで、同業者からの批判もあるだろうと長尾先生はおっしゃっていましたが。

**長尾** この本は、僕にとって自己批判的な意味もありました。我が国の在宅医療を牽引しなければいけないという立場上、あまり負の側面を伝えてこなかったわけです。しかしそれは、人によっては、「美談」しか伝えていないように見えたと思います。

でも、この本が出版されて一番最初にいただいた感想は僕が尊敬する先生からで、「よくどこまで真実を書いてくれた!」とお褒めの言葉がありました。そういう「いい本だ」という意見が大半ですが、一方、トモミさんには申し訳ないけれども、「こういう不

満をぶつけてくる家族は大変だ」と、在宅医療を擁護する医療者やコメディカルの方からの反応もありました。

**トモミ** 読者からの手紙やネット書店のレビューなどを読むと、「私もそうだった」など、自分の家族の在宅医療について語る方が多く、同じような思いをされている方は少なくないなどは思いました。在宅医療だけでなく、医療界全体の問題に言及する方も多かったです。

**長尾** 一石を投げられたと思いますね。だからこそ映画化となったわけです。あの本には僕の思いを全部詰め込みましたから。



## リアルな死と看取りを描く

**トモミ** そして、映画の中では、長尾先生がモデルとなったベテラン在宅医の長野医師役の奥田瑛二さんの一言一言が、この本で長尾先生が投げかけている言葉そのままでした。

**長尾** 高橋伴明監督が僕の著書をたくさん読んでくださり、奥田さんのセリフで見事に再現してくれましたね。

この映画は、家族の物語であるけれど、医療職や介護職に就かれている方の良い教科書にもなると思っています。この映画も本も、医学部の学生の必須科目にしたり、感想を書くこ

## 『痛くない死に方』

監督・脚本 高橋伴明、原作・医療監修 長尾和宏の映画作品。自身のミスにより肺がん患者を苦しませて死なせた若い在宅医が、新たな患者に伴走して『痛くない死に方』を目指す。2021年2月20日（土）、シネスイッチ銀座他、全国公開。

写真提供／©痛くない死に方製作委員会